

令和3年3月吉日  
駒の学び舎  
世田谷区立駒沢中学校  
校長 棚田 和明

## 令和2年度の改善方策に基づく改善結果について

### 1 「キャリア教育・生き方教育を含めた進路指導の一層の充実」について

- (1) 「自分（子ども）の進路や将来の仕事について考える授業がある」というアンケート質問に対する肯定的評価は、2年生徒・3年生徒・保護者いずれも10ポイント以上増えている。今年度は授業時数確保を最優先させるように教育課程を再編成したが、キャリアパスポート運用開始、都立高校訪問授業（2年生）実施等、可能な限りキャリア教育の充実に努めた成果がアンケート結果に反映したものと考える。1年生徒への年間を通して計画的なキャリア教育の充実が必要である。
- (2) 今年度は進路説明会出席者を3年保護者に限定せざるを得ない状況で、1・2年生保護者への情報提供をタイムリーに行うことができない面があった。進路説明会への1・2年保護者への公開を可能な限り実施していきたい。

### 2 「生徒の学習活動の改善につながる評価評定のあり方の追求」について

- (1) 生徒アンケート「先生は提出物やテストをわかりやすく評価している」に対する肯定的評価は、1年86.2%・2年75%・3年77.8%であった。授業の最後に自己評価シートで振り返りをする、キャリアパスポートを面談時に活用する等自己を振り返り学習活動を改善させる取組が定着しつつある。こうした日頃の取組が肯定的評価につながったと考える。
- (2) 来年度は新しい学習指導要領に基づく新たな教育課程が始まり、各教科の評価の観点が「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点となる。新たな評価のあり方について、今年度は校内研修のテーマに設定して校内で検討してきた。生徒・保護者からの信頼に応えるために、適切な評価評定のあり方を今後とも追求していくかなければならない。

### 3 「アンケート回収率を上げて『わからない』の回答を減らす努力」について

- (1) 今年度のアンケート回収率は、保護者+20ポイント・地域の方+10ポイントと前年度の回収率を大きく上回った。保護者アンケート「学校・学年だより等で保護者に情報を提供している」では、肯定的評価が91.4%と高く、コロナ禍の中で本校の情報発信には一定の成果があったと考えられる。同時に、保護者の学校情報に対するニーズが高かったとも考えられる。
- (2) 残念ながら「わからない」の回答は例年以上に多かった。保護者アンケート41項目中13項目で20%を超える「わからない」とする回答があった。今年度は学校の教育活動を保護者や地域の方々に公開する機会が限られていたことが原因と考えられる。しかし、運動会や若竹祭（展示部門）を参観した保護者からは、多くの肯定的な意見が寄せられ、教職員にとっては大きな励みとなった。学校公開の大切さをあらためて実感することができた。